

# 神経難病患者に対する在宅療養支援事業報告 ～健康福祉センター保健師との協働～



◎ 畠山悠輝<sup>1)</sup> 今野和成<sup>1)</sup>

1) 総合病院 国保旭中央病院 診療技術局リハビリテーション科 (香取海匠地域リハビリテーション広域支援センター)

## 1.はじめに

香取海匠地域リハビリテーション広域支援センターでは、『リハビリテーション専門職の在籍していない関係機関に対する相談支援事業』として、今年度より香取健康福祉センターの保健師との協働により、『リハビリテーション専門職による訪問相談事業』を開始した。

今回、その取り組み内容と、事業実施によりみえてきた課題について報告する。

## 2.事業開始までの経緯と準備

2018年3月

- 平成29年度 香取海匠地域リハ連絡協議会にて、香取健康福祉センターの保健師と意見交換

個別性のある対応が難しい

運動の効果に対する知識が不足している

具体的なリハビリの方法を聞かれるが指導が難しい

今後、協力いただきたい！

6月

- 事業(案)をもとに、協力依頼
- 院内で検討し、派遣事業実施決定

7月～8月

- 事業開始に向けた検討
- 県支援センターに相談

- 目的、対象、内容
- 導入手続き方法
- 連絡票や報告書の様式...

9月～  
事業開始

## 3.リハビリテーション専門職による訪問相談事業

### 目的

- 難病患者とその家族に対し、リハビリ及び療養生活に係る相談、指導を行い、安定した療養生活の確保と難病患者及びその家族の生活の質の向上に資する

### 対象

- 香取健康福祉センター管内の指定難病医療費助成受給者
- 神経難病患者を中心に導入が適切と思われる者

### 内容

- 難病患者・家族に対して、リハビリテーション専門職を派遣し、担当保健師同行のもと、在宅にてリハビリや療養にかかる相談・助言を行う
- 場合によりケアマネ等も同行し情報交換

### 頻度

- 事業実施頻度: 月1回(半日)、1回につき1～2名
- 対象者訪問頻度: 基本的に1回完結

	訪問前	訪問	訪問後
保健師 (健康福祉センター)	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象者の決定</li> <li>日程調整</li> <li>対象者へ事前説明</li> <li>主治医に確認</li> <li>連絡票作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同行訪問</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実施後評価</li> </ul>
リハ職 (広域支援センター)	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象者の確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>訪問相談・指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>結果報告票作成</li> </ul>

#### 依頼事項

- 自宅におけるリハビリの方法
- 転倒予防のための動きの工夫
- 屋内環境への助言
- 動作指導(立ち上がりなど)
- 痛みへの対処法

#### 指導内容

- 自主トレ指導
- 動作指導、生活指導、摂食指導
- 環境調整
- 車椅子の調整
- 介護保険リハサービスの紹介



## 4.神経難病の講演会・情報交換会

### 目的

難病患者とその家族に対し、医療および療養生活にかかる相談、指導等を行い、安定した療養生活の確保と難病患者およびその家族の生活の質の向上に資すること

### 対象

香取地域に在住の神経難病患者、家族

### 内容

—香取合同庁舎大会議室にて開催—

- ①理学療法士による講演 自宅できる簡単リハビリ(50分)
- 神経難病における疾患特異的な動作に関する知識
  - 過負荷の注意や苦手とする動作に対する運動

- ②患者および家族の情報交換会 (60分)
- 情報交換会にて各グループへの助言
  - 意見や想いの抽出

日常生活の注意点や簡単な自主トレの提供。

グループにて情報交換。保健師が進行役に配置

### 結果

終了後のアンケート(18名)

- 講演会の内容について →①理解できた(14名) ②まあまあ理解できた(4名)
- 内容は今後役に立ちそうか→①役立つ(18名)
- 情報交換会について →①有意義であった(15名) ②まあまあ有意義であった(2名)



—方向性ではなく双方向の情報交換が重要

## 5.考察

- 訪問相談・講演会においては、患者および家族がリハビリについての知識を獲得し、**日常生活での実践につなげるきっかけ**になった。
- 情報交換会では、同じような疾患を持つ患者および家族同士が情報交換することで、**不安の軽減や、前向きに療養生活を送るきっかけ**になることが期待された。
- 保健師やケアマネにおいては、対象者に必要なリハ・サービスに関する知識が不足していると感じ、対応に不安を抱えているとの声が聞かれた。対象者・家族に限らず、取り巻く**支援者への相談支援も重要**であると感じられた。
- 外来・通所でのリハ・サービスを受けているのにも関わらず、在宅生活における心配事や疑問を抱えている対象者が少なくなく、訪問による支援のニーズが伺われた。外来・通所のリハ専門職においても、**「在宅」での生活をより具体的に視野に入れ対応する必要がある**と考えられた。

## 6.まとめ

- 香取健康福祉センターの保健師との協働により、『リハビリテーション専門職による訪問相談事業』を開始した。
- 訪問相談支援においては、自宅での自主トレや動作方法の指導、屋内環境への助言などを行った。
- 神経難病の講演会・情報交換会では、一般的な疾患の特徴・注意点・自主トレを指導し参加者で共有した。
- 対象者のみならず、取り巻く支援者へ、リハの観点から助言することの必要性を感じた。
- 外来・通所でのリハサービスを利用している対象者においても、訪問による支援のニーズが伺われ、「在宅」での生活をより具体的に視野に入れた対応が必要であると考えられた。